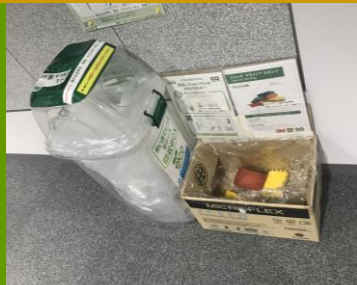
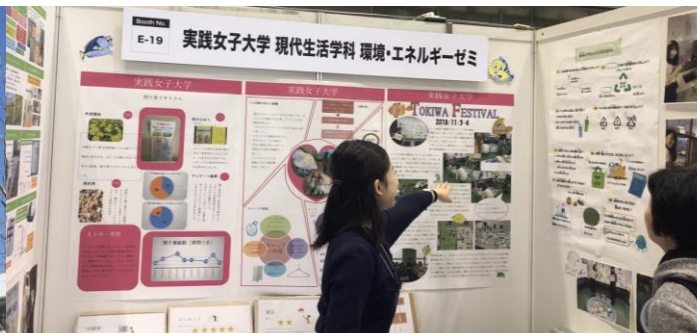


現代生活学科 環境・エネルギーゼミの学生が作成／



実践女子大学 環境報告書 2019



目次

p.3-5 日野キャンパスの環境的配慮



p.6-7 学内のリサイクル活動



p.8-9 環境・エネルギーゼミの活動



p.10 企業のCSRレポート作成プロジェクト



p.11 現代生活学科で取れる環境系資格



p.12 エコ×エネ体験ツアー参加記



p.13 学長先生にインタビュー



p.14-15 編集後記



日野キャンパスの環境的配慮

透水性舗装

<通常のコンクリートとの比較>

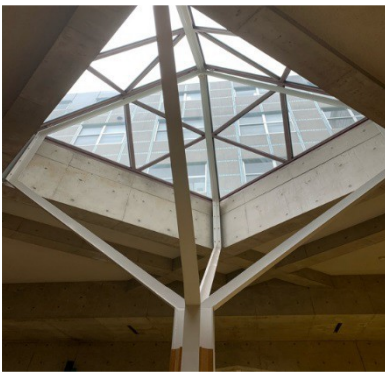
透水性舗装の地面では隙間があるため、コンクリート舗装に比べて太陽熱の蓄積が緩和され、ヒートアイランド現象の抑制や地球温暖化の防止、騒音の吸収ができます。そのためコンクリート舗装よりも環境に配慮されたものとなっています。

<透水性舗装の役割>

日野キャンパスの燎広場は、透水性舗装のブロックが敷かれています。透水性舗装が施されていると、雨水を地中に浸透させることができます。日野の地下水を増やすことにも貢献しているのです。さらに写真のように、ブロックの間には隙間があるため雨が降っても広場に水たまりができないようになっています。



図書館の工夫



図書館には天井を箱抜きしている大きな窓があります。この天窗によって、自然光を取り入れることができ、照明の電力を節電することができます。

さらに日光によって書籍が傷まないように紫外線が当たらないようなデザインになっています。

感想

日野キャンパスが環境に配慮されたつくりになっていることは、あまり多くの学生たちに知られていないと思うので、実践の学生やそのほかの方々にも知っていただきたいと思いました。

希少な生物を守る

<カントウタンポポ>

日野キャンパスのグラウンドには、希少種となっているカントウタンポポが群生していましたが、2016年にグラウンド整備の関係で急減してしまいました。減ってしまったカントウタンポポを復活させるために2016年5月にカントウタンポポ・プロジェクトが始まりました。



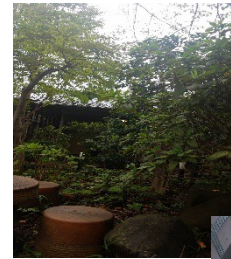
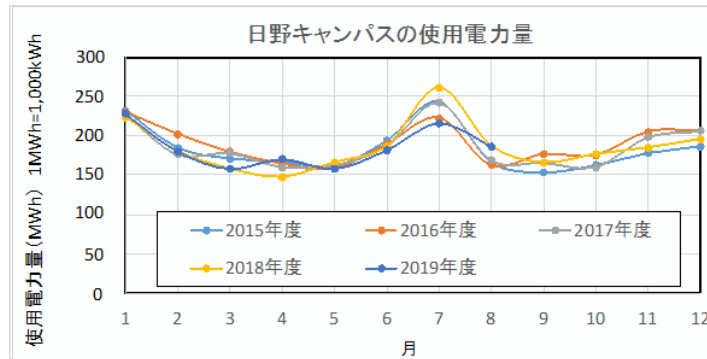
5月に種子を蒔いたカントウタンポポ・プロジェクトですが、多くの学生達や助手さん達が水をあげてくれたにもかかわらず、雑草が生えてきて、最初からはうまくいきませんが、今では左上の写真のように咲くことができます。

感想

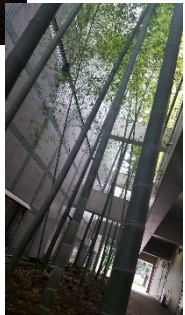
これからも皆で協力してカントウタンポポを守っていききたいと思います。

CO₂削減事業

風力発電と
太陽光発電



沢山の植物



2016年～2018年

環境省主催

「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」
 …夏至と七夕の21時以降に照明消灯の呼びかけ
 2019年（昨年度までの取り組みを継続）
 「ライトダウンキャンペーン」
 …7月2日～7月6日に実施
 ⇒推定一日141.15kWhの削減
 省エネの啓発と実践の機会を目的とする

感想

太陽光パネルには耐用年数があるなど
 デメリットもあるが広大な敷地面積が
 あるにも関わらず建物屋上など有効活
 用されていない。しかし、環境省の呼
 びかけを柔軟に取り入れることや学
 生、教員と協力し合ってエコ活動を推
 進している。

ESCO事業

ESCO (Energy Service Company) は、省エネルギー対策に必要な
 技術・人材・資金など包括的なサービス用いて、その効果を保証する。

実施施設：実践女子大学日野キャンパス本館

感想

ESCO事業についてこれを機に初めて知
 りました。他の大学でも取り組まれている
 ようなので、大学生に向けた環境広報
 活動にも力を入れていくとさらに良いと
 考えます。

実践女子大学日野キャンパスでは2009年
 に環境活動の一環としてESCO事業を取り
 入れ、冷暖房空調設備の熱源機器を更新

施設整備後の効果

＞キャンパス全体の「約20%」のCO₂排出量の削減
 ※東京ドームの敷地内約3.7個分を植林することに相当

日野キャンパス第3館

～環境に配慮した建物～

パッシブデザインとアクティブデザインの共存・・・

- ・パッシブデザイン：機械で温度を調節するのではなく、なるべく自然エネルギーで建物内の温度を調節する方法。
- ・アクティブデザイン：冷暖房機器などを効率的に組み合わせて快適な建物にする方法。
- ・大空間の上部熱溜りを解決するために、「ソーラーチムニー（自然換気）」を使用。「大空間局所空調」、「地中熱利用」と合わせて環境配慮の建物とした。

地中熱利用の効果・・・

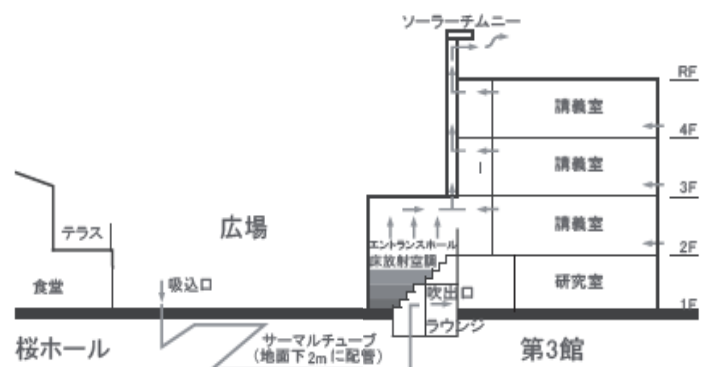
- ・地中熱利用：浅い地盤中に存在する低温の熱エネルギーです。大気の温度に対して地中の温度は地下10～15mの深さになると、年間を通して温度の変化が見られなくなります。そのため、夏場は外気温度より地中温度のほうが低く、冬場は外気温度より地中温度のほうが高いので、この温度差を利用して効率的な冷暖房等を行います。（資源エネルギー庁ホームページより）
- しかし、3館はサーマルチューブを地下2mに敷設したので、外気温度の影響を受けやすくなっています。
- ・年間を通して安定した地中熱を採熱し1階ラウンジへの給気に利用。

床放射冷暖房設備（大空間局所空調）の効果・・・

- ・床放射冷暖房設備：水や空気によって床面からの放射により室温を調整するシステム。
- ・床下フィルムダクトにて空調空気を送風、各気流変換器から床下面に吹く。

ソーラーチムニー（自然換気）の効果・・・

- ・ソーラーチムニーは煙突内に上昇気流を発生させることで自然に換気をさせる装置。
- 換気により、エネルギー消費量の削減に加え、自然の風を取り組むことで心地よさを獲得。
- ・ソーラーチムニー頂部は太陽光熱による上昇気流を誘発。各階廊下上部に吸込口を設け排気専用縦ダクトにて屋上で排気。



外部環境と第3館の構成を示したダイアグラム

参考・引用：一般社団法人日本建設業連合会、サステナブル建築事例集、No.19-017 (2016)

【使用している学生からの3館の評価】

実際は・・・

夏季はガラス張りで直接太陽の熱が伝わるので、外より中の温度のほうが暑いのでエアコンを使用しています。1・2階と3・4階のガラス張り面積を比較した上で、3・4階の廊下のほうがある程度涼しく感じるのので、ソーラーチムニーの効果は出ているのではないのでしょうか。



学内のリサイクル活動

環境・エネルギーゼミではペットボトルキャップ/割り箸/使い捨てプラスチックなど様々なリサイクル活動を行っています。

ペットボトルキャップ



回収したペットボトルキャップは、上記の工程を経てアクセサリーや回収BOXに生まれ変わっています。回収したものを企業に渡して終わりではなく、自分たちの手で生まれ変わらせ最後まで携わっています。

割り箸



回収した割り箸は王子製紙に送り、トイレトーパーやティッシュなどに生まれ変わっています。

割り箸を回収する左図のBOXは学内で回収されたペットボトルキャップから作成されています。

今後は王子製紙に送るだけでなく、割り箸を炭に変換し、消臭の目的などに利用して回収から再生まで私たちの力で携わりたいと考えています。

使い捨てプラスチック

本校では企業のリサイクルプロジェクトに参加し、コンタクトレンズの容器や歯ブラシ、キッチンスポンジの回収を行っています。回収率向上のため、学内にポスターや小さい回収ボックスも設置しています。

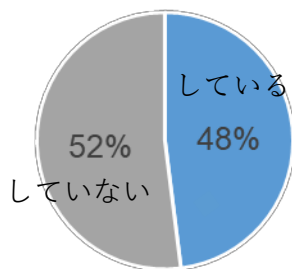


以下の企業のプログラムに参加しています。

- **コンタクトレンズ容器**…アイシティ eco プロジェクト（コンタクトのアイシティ）
- **歯ブラシ** …ハブラシ回収プログラム（テラサイクルジャパン）
- **キッチン用スポンジ** …スポンジリサイクルプログラム（テラサイクルジャパン）

アンケート

〈学内リサイクルの認知度〉



校内で学生にアンケートを行った結果、リサイクル活動は100%認知されており、そのうち分別をしている人が約半分であることが分かりました。この結果から、広告/回収BOXの設置を増加させ、回収率向上を目指します。

リサイクル啓発の広告



校内アンケートの結果、リサイクルを行わない理由として「回収BOXの設置場所が分からない」という意見がありました。

そのため、広告に設置場所の記載をして、学食など人が多くいる机に広告を設置しています。

環境・エネルギーゼミの活動

「常磐祭 2018」

～リサイクル魚釣り～

幼児から小学生を対象に燃えるゴミ・燃えないゴミ（プラスチック）・ペットボトル・缶（アルミ・スチール）・ビン・発泡スチロールの素材のごみを用意し、魚のイラストを描いた画用紙を張り付け、釣り竿でそれらを釣るゲームです。ゴミ箱をごみの素材ごとに用意し、釣ったものを分別してもらうことで分別意識の向上に努めました。



～環境クイズ～

部屋のイラストの中で環境負荷になっているところを探して当てもらうというゲームを行いました。正解した人には太陽光に当たると水・炭酸ガス・バイオマスに生分解される素材でできたEcologyという風船をプレゼント！日常的に家庭でできるエコな取り組みを自分から見つけて対策ができるようになることを目的としました。



常磐祭 2019



～ペットボトルキャップから作るフォトフレームのワークショップ～

通常はゴミとして捨てられてしまうペットボトルキャップを違う製品へリサイクルできないかという思いから、キャップでビーズを作り、子供も作れるフォトフレーム作りを考えました。

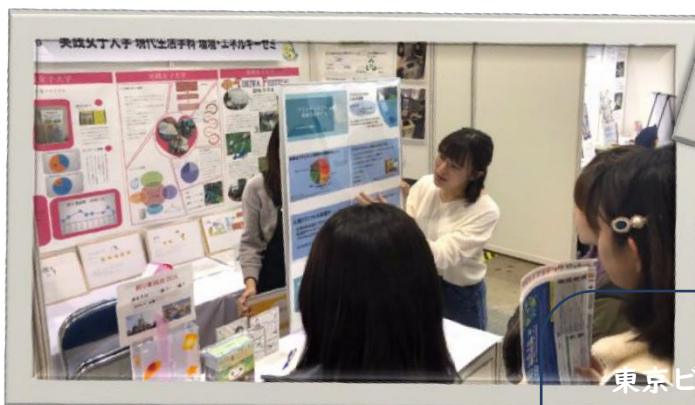
子供たちと一緒にフォトフレームを作ることによって分別・リサイクルしたキャップが新しいものへ変化できることを実感してもらうと同時に、分別意識の向上・習慣化のきっかけを作ります。

「節電ポスター」

大学の事務からの依頼でゼミ生が作成した節電推進ポスターです。日野と渋谷の両キャンパス内のあらゆるところに貼られています。



「エコプロ 2018」



東京ビッグサイトで開催されたエコプロ2018に初出展。小中学生から社会人の方までたくさんの方がご来場くださり、私たちの取り組みについてお話をさせていただきました。ご助言やご質問も多くいただき、出展者側だからこそできた経験や出会いがたくさんありました。



「Jフェス」

2019年5月に実践女子学園の創立120周年を記念して行われた特別イベント「実践女子学園フェスティバル（Jフェス）」に出展。現代生活学科のブースではペットボトルキャップから作成されたアクセサリーの販売を行いました。



「ジョシエネLABO」

みんな電力（株）のCSR事業であるジョシエネLABOの方々に誘われて、他大学の女子大生と共にグリーン電力のカフェのプロデュース事業に参加しました。



企業のCSRレポート作成プロジェクト

環境・エネルギーゼミの3年生7名が、資源循環へ向け様々な取り組みを行なっている大谷清運株式会社のCSRレポート作成プロジェクトに参加しました。

6月

第1回ミーティング

第2回ミーティング

第3回ミーティング

大谷清運二木社長にプレゼン

第4回ミーティング

第5回ミーティング

工場視察

社員インタビュー

7月

社長インタビュー

社員インタビュー

8月

CSRレポート完成



MEETING

まずSDGsの理解から始まったミーティング。大谷清運の二木社長に向けてプレゼンを行い、本格的にプロジェクトがスタートしました。



INTERVIEW

大谷清運の二木社長、社員の方々にインタビューを行いました。



FACTORY

大谷清運の工場へ実際に足を運び、現場で働く方々の声を聞きました。



現代生活学科で「環境領域の科目を深く学びました！」と証明できる環境系資格の取得を支援しています！

現代生活学科の環境・エネルギー領域の科目を学んだ証として、さらに就職活動や将来の仕事につなげられる資格として、授業履修型の資格をご用意しました。資格は履歴書に書くことができますし、そこから就職活動における会話も始まります。学生諸君には「私は環境・エネルギー領域の中でも、特に〇〇を学んでこの資格を取りました。」と胸を張ってお話していただきたいと思います。一方、受験型の資格の優位性は揺らぐことはありません。現代生活学科の環境・エネルギー領域の科目の学習を通して、主に、eco 検定（環境社会検定）や、3R・低炭素社会検定の受験・合格も支援しております。環境・エネルギー領域に関心の高い受験生の皆さまを現代生活学科でお待ちしております。

現代生活学科 教授 菅野 元行（環境科学・エネルギー研究室）

★授業履修型資格① 環境マネジメント実務士 [一般財団法人 全国大学実務教育協会] (女子大学で初めて)

環境対策の現状と課題、持続的循環型社会を実現するための知識を取得し、様々な環境問題に取り組むために必要な専門知識を修得したと認定される資格です。

●この資格を活かせる職種 環境コンサルティング会社、環境アセスメント会社などの環境コンサルタント、環境アセスメント調査員など一般企業の環境管理部門でも活かせます。

●取得方法 以下の現代生活学科の環境系科目から 20 単位以上（必修 8 単位含む）取得し、協会に申請（5,500 円）すると、環境マネジメント実務士に認定されます。

必修科目（8 単位） 環境科学概論、環境マネジメント論、ビジネス特論 a（環境ビジネス）、エコビジネス演習

選択科目（以下の科目から計 12 単位以上） 現代社会を読み解く a（政治と経済）、環境経済学、

現代社会を読み解く d（科学技術と社会）、地域食料論、生活産業創出論、グローバル社会、環境化学演習、

地域エネルギー論、コミュニティ概論、地域文化形成論、地域エネルギー論演習、環境の化学と工学、

フィールドリサーチ a（環境・エネルギー）、地域食料論演習、フィールドリサーチ b（自然環境）、

※プロジェクト基礎演習 a、※ゼミナール ※：環境領域の内容の課題に取り組んだ場合のみ認定

★授業履修型資格② 上級環境マネジメント実務士 [一般財団法人 全国大学実務教育協会]

(女子大学で初めて・東日本の大学で初めて)

環境対策の現状・課題などについての知識を習得し、持続可能な社会を実現する視点を常に持ちながら、積極的に環境問題に取り組むスペシャリストの環境系資格です。

●この資格を活かせる職種 環境部など専門の部署で、環境改善・保全を統括・推進する業務、具体的には廃棄物や化学物質の管理、電気や紙の使用量削減、環境教育の推進など企業の環境対策・管理を実施します。企業の活動や製品が環境に与える影響を評価・改善するための仕組み（環境マネジメントシステム）を導入したり、これらの取り組みをまとめて、環境報告書を作成する職種が想定されます。

●取得方法 以下の現代生活学科の環境系科目から 30 単位以上（必修 12 単位含む）取得し、協会に申請（7,700 円）すると、上級環境マネジメント実務士に認定されます。

必修科目（12 単位） 環境科学概論、環境マネジメント論、ビジネス特論 a（環境ビジネス）、

エコビジネス演習、現代社会を読み解く d（科学技術と社会）、環境の化学と工学

選択科目（以下の科目から計 18 単位以上） 現代社会を読み解く a（政治と経済）、環境経済学、生活産業創出論、

地域食料論、地域エネルギー論、コミュニティ概論、地域文化形成論、フィールドリサーチ b（自然環境）、

グローバル社会、フィールドリサーチ a（環境・エネルギー）、地域食料論演習、地域エネルギー論演習、

環境化学演習、※ゼミナール、※プロジェクト基礎演習 a ※：環境領域の内容の課題に取り組んだ場合のみ認定

★授業履修型資格③ 環境再生医 初級 [認定 NPO 法人 自然環境復元協会] (東日本の大学で初めて)

自然環境の知識を基礎に、地域の歴史・風土や人々の生活への理解などを裏付けとし、協働の調整や推進を行う資格です。特に「自然環境の再生だけでなく、自然と人間の関係性の再生」に力を入れています。環境再生医は環境省が主務省となっており、環境教育等促進法に基づき国が行う「人材認定等事業登録制度」により、「人材認定等事業」に登録されています。

●この資格を活かせる職種 環境再生医は平成 15 年に制定され、全国で約 4,000 人の方々が環境再生医として以下の分野で活躍しています。例) 環境に関わる企業、自治体・NPO、環境保全活動、学校などで環境教育、建設業、行政や公的機関の環境担当、環境関連施設、企業の環境部門や CSR 担当、農林漁業

●取得方法 以下の現代生活学科の環境系科目 (5 項目 19 科目) から 20 単位以上 (各項目で 2~6 単位以上) 取得し、協会に申請 (8,000 円) すると、環境再生医初級に認定されます。

項目 1 (4 単位以上) 環境科学概論、現代社会を読み解く a (政治と経済)、環境思想 a・b、グローバル社会

項目 2 (2 単位以上) フィールドリサーチ b (自然環境)、環境マネジメント論

項目 3 (6 単位以上) 現代社会を読み解く d (科学技術と社会)、環境の化学と工学、地域食料論、
地域食料論演習、地域エネルギー論、地域エネルギー論演習

項目 4 (4 単位以上) コミュニティ概論、地域文化形成論、フィールドリサーチ a (環境・エネルギー)

項目 5 (4 単位以上) ビジネス特論 a (環境ビジネス)、環境経済学、エコビジネス演習

●卒業後も伸ばせる資格 環境再生の実務経験により環境再生医の中級、上級に認定申請することも可能です。

中級：5 年以上の実務経験 上級：中級取得者で 10 年以上の実務経験および指導経験が 2 年以上

環境再生医の会が全国にあるため継続的な研鑽が可能です。

★受験型資格① eco 検定 (環境社会検定試験) [東京商工会議所]

現在の製品やサービスは環境に配慮したものでなくてはなりません。eco 検定は、実社会における複雑・多様化する環境問題を幅広く体系的に身に付けるための「環境教育の入門編」として、2006 年の試験開始以来、22 万人を超える合格者がおられます。現代生活学科の環境系科目で学ぶ内容は eco 検定と共通点が多く、3 年生のエコビジネス演習という科目では過去問を徹底的に解答して実力の涵養に努めています。2016 年度以降、この演習科目を履修した学生の多くが eco 検定を受験し、受験者のほぼ全員が合格しています。

★受験型資格② 3R・低炭素社会検定

3R (リデュース・リユース・リサイクル) 分野と低炭素社会分野の試験があります。その内容は「環境の化学と工学」など、現代生活学科の環境・エネルギー領域の科目で学ぶことができます。

★eco 検定に合格した学生の声

●現代生活学科 3 年大塚澄伶 eco 検定の受験は今まで履修してきたことをアウトプットできるいい機会でした。eco 検定も合格でき、今まで自分が学んできたことの知識に自信を持つことができました！

●現代生活学科 3 年中村美菜 受験するにあたりエコビジネス演習を受講しました。過去問を解きながら先生が補足説明してくださるので忘れていた知識を覚えなおすことができました。合格のためには授業で習ったことを何度も復習することが大切だと思います。

●現代生活学科 3 年杉本ひな子 はじめは eco 検定を受験する気はありませんでしたが、エコビジネス演習で問題を解いたり菅野先生の詳しい説明を聞いたりすることで自信が付き合格することができました。次は他の環境系の資格にも挑戦したいです。

★環境系資格取得者数 (2015 年度入学生~2018 年度入学生) 環境マネジメント実務士 9 名、上級環境マネジメント実務士 5 名、環境再生医初級 10 名、eco 検定合格 11 名、エネルギー・環境マネジャー 17 名

現代生活学科の1年生、2年生による

エコ×エネ体験ツアー参加記

エコ×エネ体験ツアーは電源開発株式会社（J-POWER）が「エネルギーと環境の共生」をめざし、人とエネルギーと環境を“つなぐ”体験型プロジェクトとして、高専・大学生や小学生親子を対象に実施しています。

このうち高専・大学生が対象のツアーは夏休みの水力編と春休みの火力編があります。

私の担当科目では、これらのエコ×エネ体験ツアーへの参加を推奨しており、2017年、2018年、2019年と3年続けて現代生活学科の学生が参加しました。

このような体験学習型の学外イベントについて今後も紹介し、参加を推奨します。

生活科学部 現代生活学科 教授 菅野元行

2018年エコ×エネ体験ツアー 水力編に参加

2019年のエコ×エネ体験ツアー 火力編に参加

中田 彩さん（現代生活学科2年生）



機子火力発電所の内部を見学し、炉の中で石炭が燃える様子はとても衝撃的でした。普段はできない貴重な見学を通し、今議論になっている石炭火力のこれからを考える良い機会になりました。昨年夏の水力編で出会った仲間たちも今回多く参加していて、さらに深い議論を行うことができました。水力編と火力編の両方に参加したことによって、それぞれの長所や短所など双方の理解を深めることができ、貴重な経験になりました。その他にも石炭火力に関する実験や横浜のナイトクルーズ、ワークショップ「エネルギー大田になろう！」などを通して楽しく知識を深めることができ、とても充実した3日間を過ごすことができました。

2019年のエコ×エネ体験ツアー 水力編に参加

平井 佑佳さん（現代生活学科1年生）



今回のツアーでは、私たちの暮らしに欠かせない豊かな自然環境と安定したエネルギー供給について学びました。そして、今後の学びで心がけたいことを得ることができました。

第一に、五感を研ぎ澄ませて学ぶことです。発電所の見学や森での体験では、五感で体感することが重視されていました。現場に足を運び、そこからより多くのことを学ぶ姿勢を大切にしたいと思います。

第二に、複合的観点から課題を捉えるということです。「エコ×エネ」というテーマはエコロジーとエネルギーの結びつきを表します。ディスカッションでは、このテーマを取り巻くあらゆる課題を総合して議論が行われました。今後も視野を広げて考えることを心がけたいと思います。「エコ×エネ体験ツアー 水力編」は現代生活学科での学びにつながる貴重な経験となりました。

環境・エネルギーゼミの3年生が

学長先生にインタビュー

してきました！



実践女子大学・実践女子大学短期大学部

学長 城島 栄一郎先生

環境・エネルギーゼミで環境報告書を作成するにあたり、実践女子大学が取り組んでいる活動をより深く知るために、実践女子大学の学長である城島栄一郎先生にインタビューしてきました！

山崎「“質の高い教育をみんなに”というものがSDGsの目標にありますが、学生が平等な教育を受けられるように行っていること、考えていることはありますか。」

城島学長「J-TAS(※)では卒業後も転職などのサポートを行っています。また一人ひとりにあった教育を行い、**学生のみなさんが社会に出た時に活躍するための必要なカリキュラムを組んでいます。**」



板垣「本学の今後の発展に向けて、教育・環境対策など総合して学生に求めること、期待することはありますか。」

城島学長「本学の学生は真面目ですが外に発信することが少ないようで、十分に活躍することができていないようです。本学の創設者である下田歌子先生の建学の精神には「**女性が変わる、世界を変える**」という言葉があります。例えば、若者の投票率が少なくと政策が高齢者中心になってしまいます。若者の意見が反映されやすくなるように、おかしいと思うこと、こうしたほうがよいと思うことを学生が世間に発信して行ってほしいです。」

大場「本学の環境の取り組みについて、教職員間での共通の認識、また学生に知っておいてほしいことがあれば教えてください。」

城島学長「田野倉を始め、様々な町に行き現地の人と共にお祭りを開催するなどの地域活性化を行っています。しかし、このような取り組みをしていることをあまり知らない人が多いと感じるため、**ホームページに掲載するなどして多くの人に**

発信しています。また、渋谷・日野キャンパスの電気の消費量を教職員の間で共有し無駄な電気を使わないように気をつけています。」

山崎「日野キャンパスではソーラーパネルやカントウタンポポの保護、渋谷キャンパスでは屋上緑化、雨水利用など環境に配慮した取り組みが行われていますが今後新たに取り組みたいことはありますか。」

城島学長「太陽光発電は天候などにも左右されやすく、天気が良い時は発電量も多いですが曇ってくると徐々に減り夜は発電量がゼロになってしまいます。そのため発電量が多くなる時は多く発電し、使いきれないものを蓄電池で貯めます。電気を貯めるのに一番効率の良いのがリチウムイオン電池です。能力がさらに上がり、コンパクトになれば変動の大きいエネルギーを貯め、必要なときに使うことができます。そのようなものを学園に取り入れられれば良いと思います。」



板垣「本学の環境対策について改善していくべきところはあるでしょうか、また今後のビジョンはありますか。」

城島学長「教職員はエネルギーをどのように使用しているか、学内でストローを使わないようにしよう、などの様々な環境に関わるデータを情報共有し、その情報を学生にも共有できるようにしていきたいです。そうすることで**学生のみなさんがSDGsを考えるような体制になり、それをきっかけに学外にも情報を発信していけるようになる**と思います。」

大場「本学の環境の取り組みについて、外部に向けてどのような発信をしていきたいと考えていますか。」

城島学長「学会発表や学園祭で成果を発表していきたいです。さらに学園祭の際、アンケートに回答してもらいデータとして使用します。アンケートで**SDGsなどを考えるきっかけになり、そこでSDGsを知ってもらう**ことができれば良いと考えます。」

※J-TAS:「入学前から卒業後まで、学生一人ひとりの個性を大切にしたい個別支援体制」を目指した実践女子大学独自の新たな学生支援制度の総称です。

編集後記

実践女子大学は今年度で 120 周年を迎えました。学祖・下田歌子先生は「女性が社会を変える、世界を変える」という精神を打ち出し、本学でも社会で活躍できる女性の育成を行っています。私たち学生も実践女子大学を卒業した後に社会人として社会の中で活躍できるように学んできました。現代生活学科では私たちの生活や社会を取り巻くメディア・環境・自立を三本柱として学んでいます。その中で私たちが環境を主軸として学んでいるのは、今後私たちがどんな仕事に就いても必ず全員が関わってくる分野であると考えているからです。

現在、地球温暖化や海洋プラスチック、生物多様性など地球全体で数多くの問題を抱えています。これらは世界共通で対策を取り組むべき問題であり、国連は2015年に2016年から2030年までの目標として持続可能な開発目標（SDGs）を策定しました。それを機に政府だけではなく企業も環境問題を含めて17のテーマを積極的に取り組むようになりました。また2020年の東京オリンピック・パラリンピックでもSDGsが一つのテーマになっているように世界中の誰もが持続可能な社会に向けた意識を持つことが不可欠な時代ではないでしょうか。これからを担う学生も積極的にこれらの問題に対して取り組んでいかなければなりません。

私たち実践女子大学生生活科学部現代生活学科環境・エネルギーゼミでは少しでも問題となっている環境問題を解決するためにリサイクル可能な資源の回収活動を主なテーマとして行っています。私たちが所属しているゼミの活動を少しでもこの環境報告書を通じて知っていただけたら嬉しいです。さらに詳しいこれまでの活動やこれから取り組んでいきたいこと、実践女子大学キャンパスの環境に優しい活動などはこのゼミのSNS（TwitterやInstagram）で投稿しております。ぜひご覧ください。これからもより環境に優しい取り組みを模索していきたいです。

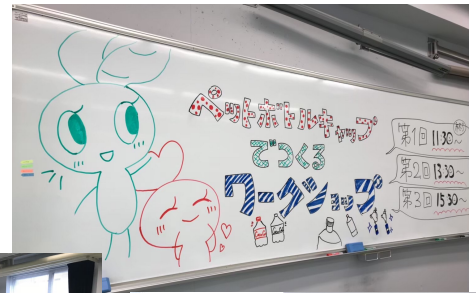
たった10名の小さな活動かもしれませんが、この活動を続けていく中で環境問題に関心が無かった人たちにも環境に優しい取り組みの輪が広がっていくことを期待しています。

この冊子を手にとってくださった皆様と共に持続可能な明るい未来を構想していきたいです。

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 環境・エネルギーゼミ 一同



2018年前期
ベストティーチング賞
教授：菅野元行先生「環境科学概論」



2019年 常磐祭
ゼミ活性化室



12月5日.6日.7日
エコプロ2019

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 環境・エネルギーの領域科目・ゼミがめざすSDGs

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



【現代社会を読み解くd (科学技術と社会)】 1年生後期

現在の各種のエネルギー、発電の特徴を理解しながら、自然エネルギーの重要性を学ぶ。

【地域エネルギー論】 2・3年生後期

地域自立に不可欠な、地域による自然エネルギー事業の事例からその重要性を学ぶ。

【地域エネルギー論演習】 3年生前期

地域で自立したエネルギー事業の自発的学習により地域エネルギー事業の仕組みを学ぶ。

【環境科学概論】 1年生前期

地球の生い立ち、太陽光の紫外線、赤外線、可視光線の特徴から温暖化抑制の重要性を学ぶ。

【ビジネス特論a (環境ビジネス)】 2・3年生前期

温暖化抑制のための国際的・国内の取り組みから温室効果ガスの排出削減がビジネスと密接に関係していることを学ぶ。

【エコビジネス演習】 3年生前期

環境ビジネスの事例を自発的に学ぶことで、環境事業の重要性を学ぶ。eco検定の合格を支援。

14 海の豊かさを
守ろう



【フィールドリサーチa (環境・エネルギー)】 1年生後期

【プロジェクト基礎演習a (環境・エネルギー)】 2年生後期

学内の廃棄物資源の効率的回収方法を実践することにより、海洋への廃棄物の流出を防ぐ。

【ゼミナール】3年生年間 【ファイナルプロジェクト】4年生年間

学内外のエネルギー資源、廃棄物資源、環境問題について自主的に学ぶことで、環境・エネルギー領域の学習の集大成となる卒業論文を作成する。

【環境の化学と工学】 2・3年生前期

原子力発電やプラスチックリサイクルなど自然科学の面から環境問題を学ぶ。

【環境化学演習】 3年生後期

原子力発電やリサイクルの事例を自主的に学ぶことで、化学の視点から環境問題を学ぶ。

13 気候変動に
具体的な対策を



15 陸の豊かさも
守ろう



持続可能社会における環境・エネルギーの問題は 「他人事（たにんごと）」にしないことが最善の近道

現代生活学科の4期生にあたる学年のゼミ生がついに実践女子大学で初めての環境報告書を作成しました。すでに以前から環境報告書を作成している他大学に比べれば、まだ全学的に環境やエネルギー領域を推進しているわけでもなく、本学の日野キャンパスの内容、特に現代生活学科の環境・エネルギーゼミの活動が中心になってしまったことは報告書としての若さを否めません。しかしながら、「本学で初めての環境報告書」を作成したことにとっても深い意義があると思います。

「環境？難しそう」、「バリ協定とか言われてもピンと来ない」、「早く温暖化問題を解決してほしい」、いずれも当学科の1年生の授業で得られるコメントです。確かに高校までで環境教育を受けていなかったり、環境に関心があるわけではなく入学した学生にとっては単に素直な気持ちなのでしょう。しかし、当学科の環境・エネルギー領域の授業を履修していくと、「環境やエネルギーの問題は重要な課題だ。より多くの人にその重要性を認識してもらわなければ。」という意見さえ寄せられてくるようになります。

この報告書も、当学科の他の領域よりも環境・エネルギーの領域の大切さを認識した学生諸君が環境・エネルギーゼミを選び、自発的に作成し始めたものです。振り返れば、地球環境領域について何の設備も無い状態で迎えた1期生の1年次の環境系演習科目では履修生ゼロから始まり、2期生までのゼミ生は2名でした。しかし、3期生でゼミ生が7人となり、ゼミ生からの発案で初めてエコプロに出展しました。そして4期生のゼミ生はこの「本学で初めて」環境報告書の作成に至った次第です。

環境・エネルギー領域の科目の授業を行っている、二段目の冒頭に記したように、温暖化の抑制や現在のエネルギー問題に対して「他人事（たにんごと）」の意識が垣間見えるコメントを見ることがあります。履修している学生には、本気で学びたい、少し興味がある、単に単位が欲しい、と様々な目的を持った学生がいることは自然な状況で、そのことは仕方ありません。しかし、「他人事」として環境・エネルギー問題を認識している人が多い限り、常にこの問題は後回しにされてしまい進展できません。例えば、福島第一原発の現状がどのようになっているかご存じでしょうか？現在の国内の発電によりどれだけのCO₂が排出されているかご存じでしょうか？あれだけ恐怖を感じた原発事故が多くの人の中ではすでに過去のことになってしまい、温暖化の問題も冬になれば忘れ去られてしまいます。

ともあれ、環境・エネルギーの問題は「誰かがやるだろう」ではなく、「自分がやらねば」という意識が無ければ始まることはありません。

そのような中、4期生のゼミ生が「本学で初めて」環境報告書を作成しました。集中力と意欲と努力しかとりえのない私だからこそ、4期生のゼミ生諸君のひたむきで前向きな気持ちがうれしく、「自分たちがやらなければ」という意識のもと、「本学で初めて」の環境報告書を作成した遂行力に最大限の拍手を贈りたいと思います。

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科
教授 博士（工学） 菅野 元行



この環境報告書を作成するにあたってご指導いただいた菅野先生、協力してくださった全ての方に感謝申し上げます。

SNS ACCOUNT

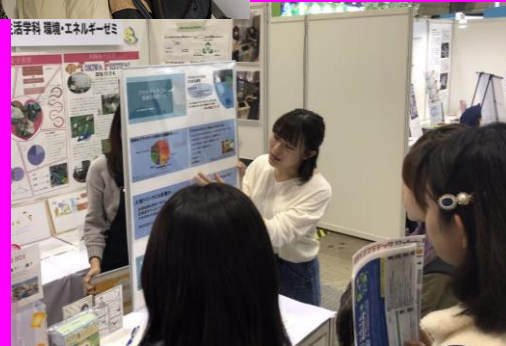
Twitter

@PBC_CS_recycle



Instagram

jissen_kankyou



企画・制作：実践女子大学
生活科学部 現代生活学科
環境・エネルギーゼミ

板垣茉耶、大塚澄怜、大場愛海、
齋藤三和、紫藤まりあ、高須美咲、
角田亜衣、藤田華帆、山崎彩由奈、
吉水華菜子

指導・監修：実践女子大学
生活科学部 現代生活学科
教授 菅野元行



実践女子大学
日野キャンパス

〒191-8510

東京都日野市大坂上 4-1-1

<http://www.jissen.ac.jp>



令和元年12月1日発行